おと　さだ

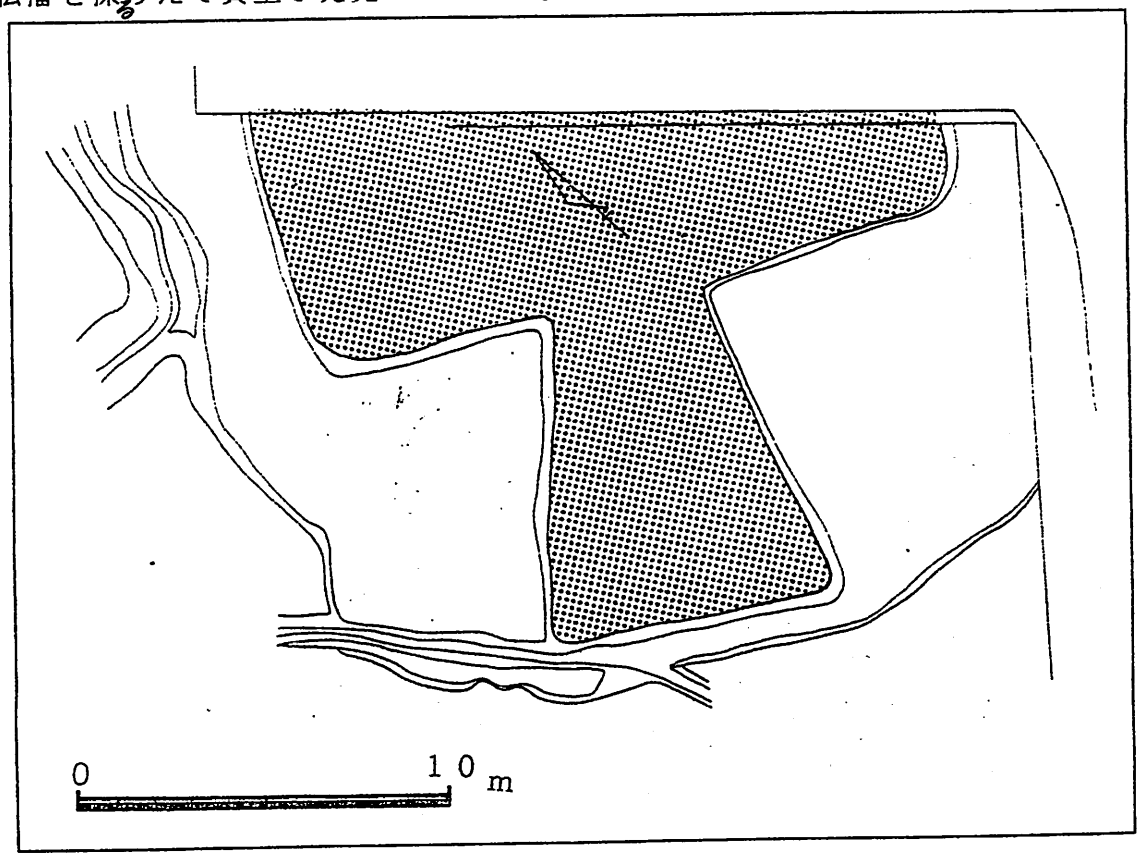
第８２号　　通巻15巻　第３号
１９９５年１０月　１日　発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎０７７５－８５－４３９７

〒５２４－０２
守山市服部町２２５０番地

☆ 前方後方型周溝墓を発掘 ☆

古高町の塚之越遺跡で前方後方型周溝墓が発見されました。全長23m（推定）後方部幅17.7m、前方部幅7.5mを測ります。前方後方型周溝墓は、方形周溝墓の四角い墳丘部に台形状の突出部分が付け足された形をしていて、弥生時代から古墳時代へ移行する時期に現れる新しい墳墓の形式です。この形は、前方後方墳や前方後円墳という古墳の発生を解く手がかりになるのではと関心がもたれています。今回の、前方後方型周溝墓の発見は守山市では５例目で、県内では他に４例が明らかになっています。未公開のもが、あと幾つかあると考えられますが、現状では、前方後方型周溝墓は野洲川流域に集中していることから、その発生や伝播を探るうえで貴重な発見といえます。



☆ 発掘調査だより ☆

SSS SSS SSS　調査終了　SSS SSS SSS

1．大洲遺跡　第５次調査

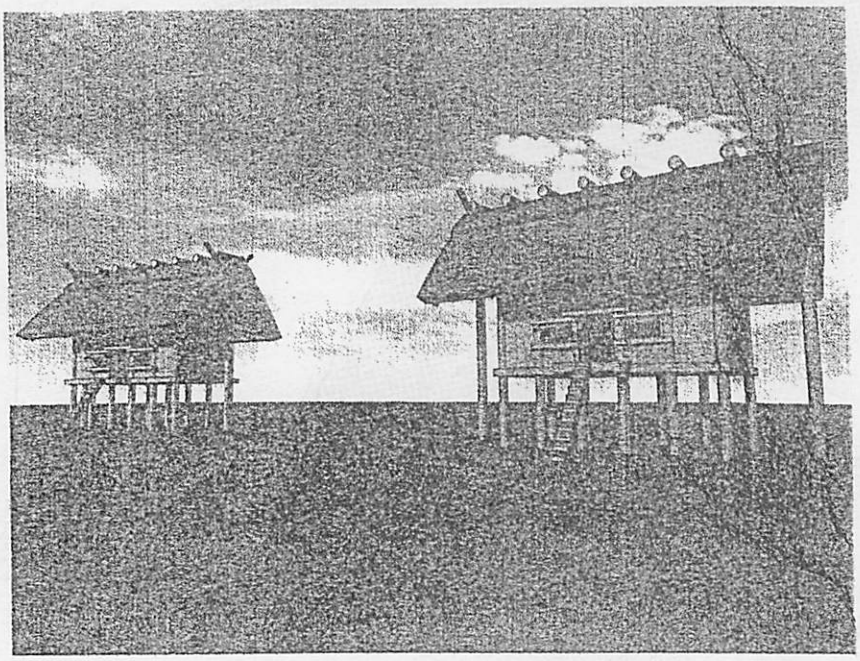
調 査 地　　阿村町字下大洲

調査面積　　約 1,800 ㎡

調査実施の理由　　宅地造成

昨年の１０月から調査を進めていましたが、８月１０日をもって終了しました。今回の調査成果を総合すると、弥生時代後期の掘立柱建物の柱穴約2000個、大型建物２棟、柵列と古墳時代前期の竪穴住居１１棟等がみつかりました。2000個におよぶ柱穴群は、この中で最も古い遺構とみられ、この地点に何度も掘立柱建物が建て替えられたものと考えられます。その後、大型建物（独立棟持柱建物）が２棟建てられています。柵列は掘立柱建物あるいは、大型建物に伴うものと思われます。また、大型建物がなくなった後、一辺９ｍ四方の竪穴住居が造られています。その住居からは、手焙形土器の破片が出土しています。このことから、弥生時代後期末から古墳時代前期にかけて、竪穴住居がこの地に次々と進出し、小規模ながら、集落が営まれていたものと考えられます。さらに、前期末には竪穴住居も廃絶し、破砕鏡とともに、玉類を埋納する祭祀が行なわれ、集落が消滅するものと思われます。

（伴野）



大型建物
復元想像図

滋賀ポリティークカレッジ
大上直樹 氏
作成

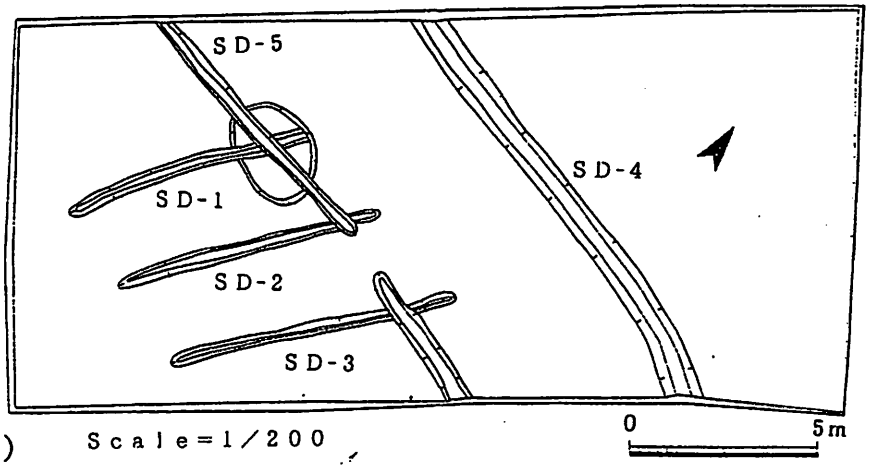
2．酒寺遺跡　（前回「調査③」で報告）

調 査 地　　播磨田14街区３

調査面積　　約　３８０　㎡

調査実施の理由　　共同住宅建築に先立つ調査

酒寺遺跡の調査は、６月末で終了しました。２カ所を調査した結果、１カ所からは約６ｍ×４ｍの不定形の浅い落ち込みと、ピット群がみつかりました。もう１カ所（図を掲載）からは、溝５条（ＳＤ－1～5）と土壙（ＳＫ－１）がみつかりました。溝のうちＳＤ－1～3は幅２０㎝前後で平行に伸び、ＳＤ－4､5はこれらを壊す形で東西方向に伸びています。また土壙はＳＤ－1～5に壊され、この中では最も時代の古い遺構で、炭まじりの土が堆積していました。いずれも遺物が出土していないため、正確な時期はわかっていません。（岩崎）



3．塚之越遺跡　８次調査

調 査 地　　守山市古高町字塚之越２５８番地

調査面積　　約　７５０　㎡

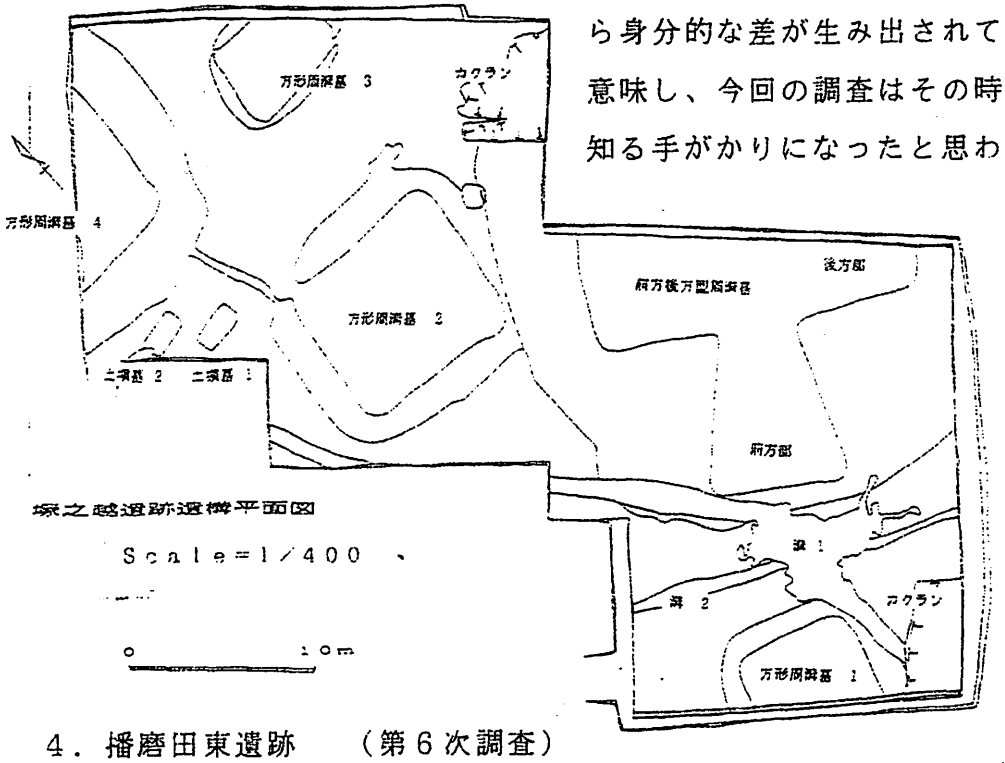
調査実施の理由　　倉庫建設

今回の調査では縄文時代中期末から平安・鎌倉時代にかけての遺構及び、遺物がみつかりました。その中で、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけて築かれた土壙墓２基・方形周溝墓４基・前方後方型周溝墓１基について報告します。

方形周溝墓は４基ともほぼ同じ方向を向いて造られています。時代は出土した土器より弥生時代後期後半です。前方後方型周溝墓は方形周溝墓２基を壊す形で造られています。お墓の規模は全長が約23m(推定)、後方部幅約17.7m、前方部長約９ｍ、前方部幅約7.5mです。墳丘は後世の農地開発によって、削られてしまい、溝は40㎝程度の深さしか残っていませんでした。時期は出土した土器によ

り弥生時代終末から古墳時代初頭と思われます.土壙墓1の底には木棺の痕のようなものがありました。時期は明確にはわかりませんが、方形周溝墓、前方後方型周溝墓とほぼ同じ時期であると考えられます。今回の調査の結果として、前方後方型周溝墓の発見は、守山市内では５例目であり、野洲川流域にこの時期に集中して発見されていることから古墳出現前夜の様相を色濃く表していると考えられます。また同じ場所で様々な形の墓が同時期に造られることは、その形の違いから身分的な差が生み出されていることを意味し、今回の調査はその時期の様相を知る手がかりになったと思われます。

（佐々木）

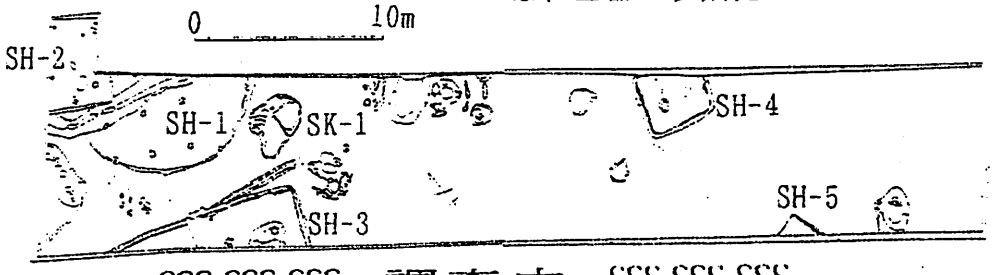


４．播磨田東遺跡　（第６次調査）

調 査 地	播磨田町字北横内１１０番地－１
調査面積	約６００㎡
調査期間	５月22日～８月31日
調査原因	共同住宅建築

今回の調査では、弥生時代後期の竪穴住居１棟、古墳時代前期の竪穴住居４棟土壙、柱穴、溝などが見つかっています。弥生時代の竪穴住居は、調査区の東側壁に限られ、残念ながら全容はわかりませんでしたが、直径約９ｍもある大きな(SH-1)円形の住居と思われます。また古墳時代の竪穴住居も調査区に限られ全容がわかりませんが、方形の住居と考えられ、一辺が約６ｍから４ｍと差があります。出(SH-2、3、4)土した土器から、全て同時期に使用されていたと思われます。これらの住居の中

には、玉を生産している住居もあり、玉作りに関する貴重な資料を追加することができました。そのほかに、周囲の壁が焼けている土壙(SK-1)が見つかり、その中からは、土器が多数見つかりました。（木村）



SSS SSS SSS　調査中　SSS SSS SSS

5．下長遺跡　　第15次調査

調 査 地　　古高町字地五田

調査期間　　７月17日～９月15日（予定）

調査面積　　約５５０　㎡

調査原因　　工場建設

下長遺跡の東端にあたる地点で調査を行なっています。これまでに古墳時代初頭から中頃とみられる竪穴住居や柱穴それに鎌倉時代頃の柱穴や小溝がみつかっています。竪穴住居は、現在７棟が確認されていますが、重複していることから、何度か建て替えられているようです。（小島）

6．二ノ畦・横枕遺跡　　第27次調査

調 査 地　　下之郷町字向八代１－１番地

調査面積　　約２，１００㎡

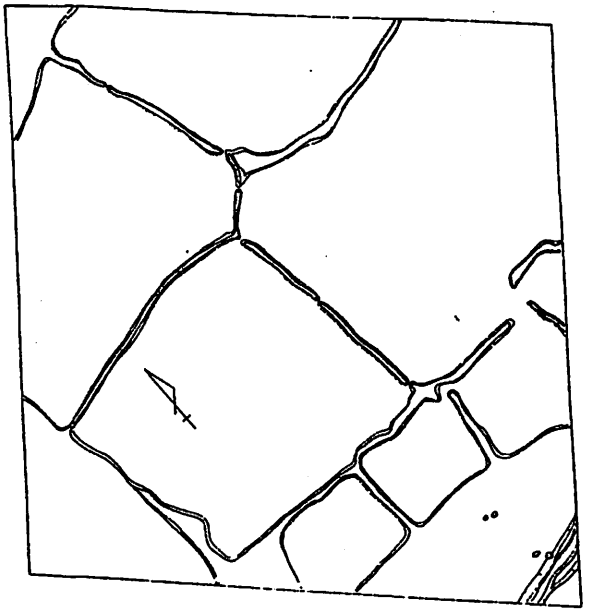
調査期間　　６月15日～10月31日（予定）

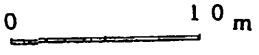
調査原因　　店舗建築

今回の調査場所は、二ノ畦・横枕遺跡の北東部、野洲町側で以前に見つかった環濠のすぐ西隣に位置していて、集落の内側部分にあたります。これまでの調査では、竪穴住居や掘立柱建物が多数見つかっていて、環濠集落内部の生活の様子が徐々に明らかになってきています。今回の調査でも、竪穴住居が９棟、掘立柱建物が１～２棟検出されています。見つかった竪穴住居は、建て替えによって重複しているものもありますが、９棟のうち４棟が円形をしていて、残りの５棟が方形をしています。方形のものは、円形のものより小さいものが多く、住居の形

態による使い分けがあるのかどうか、堀ながら検討したいと思います。今回の調査では、この他、弥生時代の集落が廃絶した後の古墳時代の水田跡も発見されています。見つかった水田跡は、一筆の面積が30～250㎡と現代の田んぼより小さく区画され、地形の起伏にあわせて上手に作られています。

（川畑）



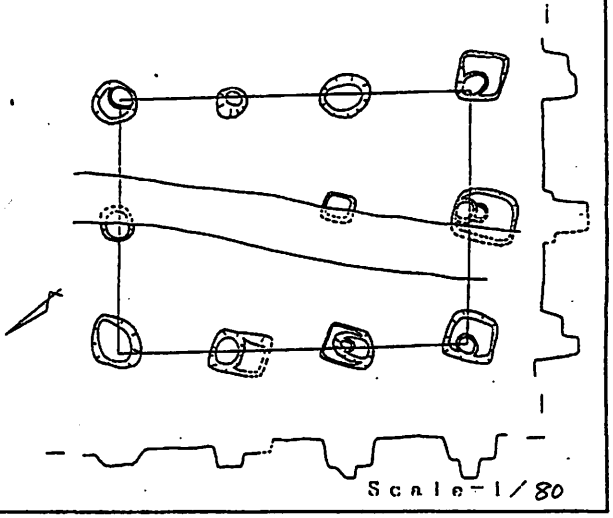


7．欲賀南遺跡　　第３次調査

調 査 地	欲賀町字福恩寺
調査面積	約５，３００㎡
調査期間	６月７日～12月22日（予定）
調査原因	団体営ほ場整備事業

前号でお伝えしたあと、道路予定地の半分を終え、現在は北端にあった畑地部分の調査を実施しています。まず、終了した道路の調査では、掘立柱建物１棟と土壙、ピット、小溝がみつかりました。掘立柱建物は３間(3.7m)×２間(2.7m)の総柱建物で、柱穴は円形または方形で大きさは35cm～60cm、深さ20cm～46cmです。柱穴のひとつには長さ、直径とも11cm程の柱が残っていました。少量の土器の出土でしたが、時期は古墳時代前期と考えられます。土壙、ピット、溝からは土師器、黒色土器、陶器が出土し、およそ室町時代以降と考えられます。畑地部分の調査では、地表から約１m掘り下げたところから土壙、ピット、溝などの遺構がみつかっています。これからの成果は次号でお伝えします。

（畑本）



8．吉身西遺跡

調 査 地　　守山町字下ヌケ田422-5番地他

調査面積　　約１３５０　㎡

調査期間　　８月７日～９月29日（予定）

調査原因　　店舗、共同住宅建築

守山市民病院近くの造成地で、吉身西遺跡の発掘調査を始めました。現在、中央部の調査区を発掘中で、ほぼ全域から旧河道がみつかっています。平面検出の段階であるため時期や規模などの詳細はわかっていませんが、旧河道の低湿地を水田として土地利用した可能性があります。　（山崎）

9．吉身北遺跡

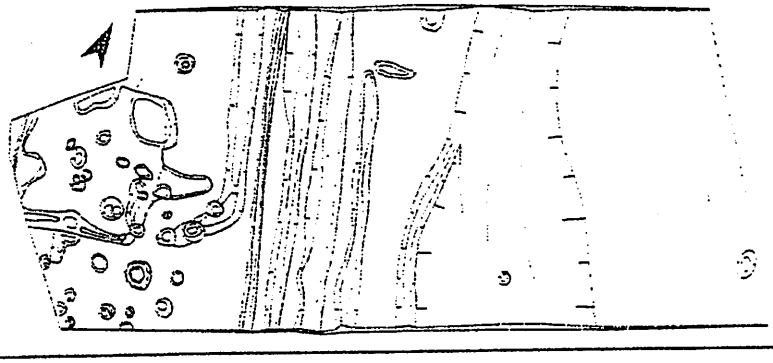
調 査 地　　勝部町字松塚422-5番地他

調査面積　　約１３００　㎡

調査実施の理由　　都市計画道路建設

８月１日から発掘調査を開始しました。調査区の西辺から竪穴住居１棟（ＳＨ-1）と多数の柱穴、土壙そして東方向に旧河道、溝６条（ＳＤ－1～6）がみつかりました。まず、竪穴住居は一部調査区外に広がりますが、一辺約４ｍの方形住居で、25cm程の深さで床面から主柱穴、貯蔵穴がみつかっています。出土した土器から６世紀後半の時期と思われます。竪穴住居の東側でみつかった旧河道の埋没後に溝が掘り込まれていて、出土した土器から古墳時代後期（ＳＤ－４、６）の２時期の溝があることがわかっています。溝６条ともに同じ方向に伸びていますが、幅約15cmの小溝ＳＤ－２から3.6m前後のＳＤ－６まで規模に違いがあります。さらに６条の溝の下層にも古墳時代の溝があり、このあたりは長い間低い地形であったようです。これから調査は守山駅前の方向に進めていきます。次号で続報をお知らせします。

（岩崎）



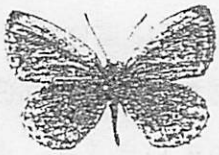
Scale＝1／200

0　　5m

☆ 文化財調査の窓 ☆

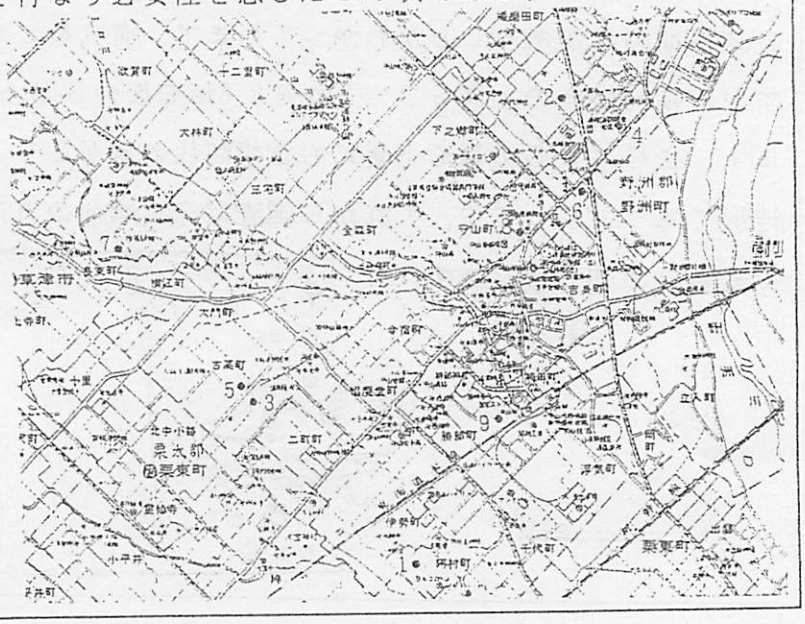
『遺跡から出土した蝶』

昭和５１年の秋、服部遺跡の大きな溝跡から「蝶」が出土した。弥生時代後期の壺が幾つかの破片になってみつかったのだが、その破片の一つを取り上げたところ、きれいな「蝶」が現れた。調査に参加していた学生が発見したのであったが、その後、どういう経過かよく覚えていないが、サンケイ新聞社の佐藤記者と一緒に、大阪府の自然史博物館へ、どのような蝶かを調べてもらいに行った。その結果は、今のものと同じ「しじみ蝶」であるとのことであった。しかしながら、蝶の羽に「りんぷん」が残っていたことから、「遺跡から出土したものとは信じられない」と言われた。出土した事実を疑われたこの言葉は、研究者の発言として私の心にグサッと刺さった。別の話になるが、北九州のある遺跡で弥生の大型建物がたくさん発見されたと報じられた。たまたま概要報告書を目にする機会があったが、大型建物と考えられないものが多く見られた。また最近、大阪府の池上・曽根遺跡でも大型建物が発見されたとの記事があった。現地説明会の資料を見て、建物として問題な点があるのではないかと思った。しかしながら、「しじみ蝶」の研究者の話を思い出した時、大型建物に対しての疑問が、このこととよく似た例ではないかとも思われた。事実を正確におさえることがなければ、このような批判があっても、相手を論破することはできないので、今後、遺跡の調査をもっと精度を上げて行なう必要性を感じたこの頃である。



「しじみ蝶」

〔 調査位置図 〕



1、大洲遺跡
2、酒寺遺跡
3、塚ノ越遺跡
4、播磨田東遺跡
5、下二長遺跡
6、二ノ畦・横枕遺跡
7、欲賀南遺跡
8、吉身西遺跡
9、吉身北遺跡